

島根原子力発電所の温排水に関する調査

(島根原子力発電所温排水影響調査)

橘 宣三・石田健次・勢村 均

1. 研究の目的

島根原子力発電所の運転にともなう温排水が周辺海域に及ぼす影響を調査する。なお、詳細については「島根原子力発電所温排水影響調査研究報告書(島水試資料 No.55)」に報告した。

2. 研究方法

調査は試験船による定線観測(水温・水色・透明度)、うるみ、魚類卵稚仔および浮遊生物調査を第1～4四半期、潮流および大型海藻調査を第1、3四半期、イワノリ調査を第3、4四半期、潮間帯調査を第1、2四半期に行った。なお、海上の調査は試験船「やそしま」を使用した。

3. 研究結果

水温観測は原子力発電所沖合の33定点で行った。添付資料に観測結果を示した。温排水の影響が無いと思われる定点15、16、17、20、21の水深別の平均値を基準水温として、これより1℃以上高い水温を「温排水の影響があったと思われる」、0.5～0.9℃高い水温を「水温がやや高かった」とした。

温排水の水平方向への広がりには1・2号機放水口沖1kmから2kmの北から東方向に見られ、深さ方向への広がりには水深2mまでであった。

うるみは放水口付近の定点を中心に約1km沖合の水深2mから5mの間で認められた。